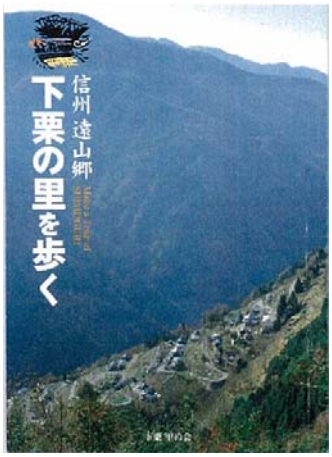
住民による下栗の里づくり事業

取り組みに至る背景・事業の目的

日本の原風景「下栗」は、高齢化と人口減少により荒廃地の増加や集落の将来までも危ぶむ声が高まってきており、「地域で出来る事は何とかしよう、やらまいか」という決意で「下栗里の会」を発足させた。

まず、地域の歴史文化を住民自らが学習し下栗の文化的価値の再認識した上で、旧下栗分校跡地の桜と紅葉樹の整備、ビューポイントの整備、地区内の案内看板の設置を行うとともに、暮らしや伝統を紹介する冊子作成や情報発信を行った。また、「下栗ふれあい祭り」などのイベントの充実、伝統野菜である「下栗いも」の栽培安定化にも取組んでいる。



事　業　内　容

○下栗の里四季の歳時記編さん、印刷、製本発刊

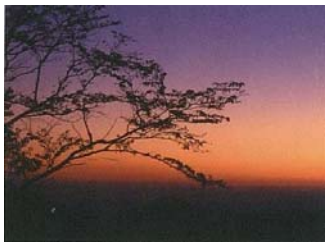
平成 17 年から構想、18 年度に調査、編集した資料をもとに歳時記を編さんした。特に産物、人物紹介等に力を入れ、題名を「下栗の里を歩く」とした。また、しらびそ方面、南信濃方面を含めたイラストにビューポイントや写真を盛り込んだマップを作成した。

○写真コンテスト

「下栗の自然と暮らし」をテーマに募集、112 点の応募があり、審査に地元住民が加わることで景観に対する意識向上にもつながった。

○講演会事業「地域づくり講演会」

「下栗」を熟知している研究者、愛知大学教授の藤田佳久氏の講演会を実施、地域の魅力の掘り起こし、再確認が得られた。また、森林資源を活かした里づくりを提案するアドバイザー福島紀雄氏の講演会を行い、今後の地域づくりの方向性に新たな認識を見出す効果が得られた。



事　業　効　果

飯田市との合併に伴い、地域の自立的な活動がますます重要性を増す中で、住民自らが地域の魅力を高めるべく、案内ガイドや来訪者の利便性を向上させる活動に深い興味と理解を示していただけるようになった。

写真コンテストの実施により地域内の魅力の再確認と共に、来訪者が長時間滞在し、この地の生活に興味を持ってもらい、住民との交流が深くなった。

また、商工会、森林組合、観光協会等、地域内の組織との連帯につながる大きな成果を生んだ。

工夫・苦労した点、課題、今後の取り組みなど

歳時記の編さんは「下栗里の会」会員以外の住民の良心的な協力があり、内容が一層濃いものとなった。取材に協力いただいた住民の方々はもとより、新聞などで冊子のことを知りご希望いただいた県内外の方々より高い評価の声をいただいている。ことに、ビューポイントや案内看板設置も相俟って、来訪者に地域の魅力を知っていただけた。平成２０年秋には、豊かな自然を満喫いただくヘリコプター遊覧が計画されている。千年余連綿と続けられてきた山里の営みが、現在に残してくれた大きな遺産に対して敬意と感謝の念を持ってひとつひとつの取り組みを重ねていく事が大切だと実感している。

【選定のポイント】
住民協働による継続した取り組みとともに、地域資源の活用方法は他のモデルとなるものである。

団体名　下栗里の会（飯田市） 連絡先　氏名　水嶋徳人(下栗里の会交流部会) 電話　0260-36-2938 E-mail　minoriya@mis.janis.or.jp	事業タイプ　ソフト事業 事 業 費　１，０５０，０００円 支援金額　１，０５０，０００円